

課題名：観光におけるユニバーサルデザインの実践について

研究代表者：社会福祉学部 教授 狩野徹

課題提案者：岩手県保健福祉部地域福祉課 渡辺英浩

研究メンバー：阿部昭博（ソフトウェア情報学部）、吉田仁美（社会福祉学部）、松尾友子（岩手県地域保健福祉部福祉課）

技術キーワード：ユニバーサルデザイン、ユニバーサルツーリズム 観光 情報

▼研究の概要（背景・目標）

これまで、平成26年度の協働研究では、ひとにやさしいまちづくり推進指針の見直し(平成27年3月改訂)を行い次の段階として、本研究では、推進指針の具体的な推進方向を踏まえ、観光をテーマに具体的な取組の実践および方向性を提案することを目指す。



図1 旅館情報の事例1

▼研究の内容（方法・経過）

1. 岩手県のUTの実施状況の把握

県内の主な観光地について、特に平泉地区を中心にUTの現状を把握した。

2. UT支援体制の対応内容の検討

UTについて支援体制が継続的に実施できている先進的事例の状況を調査した。



図2 旅館情報の事例2

▼研究の成果（結論・考察）

1. 岩手県のバリアフリーの情報提供は十分でなく、支援拠点となる組織が必要である
2. 先進的なバリアフリースターセンターでは、提供情報の精度の良さ、内容の信憑性、宿泊や介助の斡旋など総合的にしているところがある。
3. 平泉地区を中心にイベント等を継続しながら組織づくりをしていく必要がある。



写真1 平泉中尊寺月見坂における車いす体験会の様子

▼おわりに（まとめ・今後の展開）

1. ユニバーサルツーリズムを支援する組織の必要性があるが岩手県にはまだ公式にはまだ無い。
2. 観光のユニバーサルデザイン化の必要性は理解していて、実戦も始まっている。
3. 先進事例では、責任のある情報を正確に提供し、場合によっては直接的支援をすることも必要である。
4. 継続し、精度の高いUT情報を収集すると共に支援組織の設立へつなげていく予定である。